

令和7年度 国語科学習案内

1【国語科の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2【学習内容】

国語科では「話すこと聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉」について学習します。「話すこと聞くこと」では、発表やスピーチ、話し合いや討論の仕方を学習します。「書くこと」では手紙の書き方やレポートの書き方、作文、鑑賞文の書き方などを学習します。「読むこと」では詩や小説などの文学的文章や、説明的文章、情報に関する文章や、古文漢文などの古典を学習します。「言葉」では漢字や文法、語句の使い方や表現技法などを学習します。

3【3年間の学習計画】

	1学期	2学期	3学期
1年	○文学的文章（「少年の日の思い出」等） ○説明的文章（「ちょっと立ち止まって」等）	○言葉（「漢字」「言葉」「文法」等） ○古典（「竹取物語」等）	○詩歌（「詩の世界」等）
2年	○文学的文章（「走れメロス」等） ○説明的文章（「モアイは語る」等）	○言葉（「漢字」「言葉」「文法」等） ○古典（「平家物語」等）	○詩歌（「短歌」等）
3年	○文学的文章（「故郷」等） ○説明的文章（「人工知能との未来」等）	○言葉（「漢字」「言葉」「文法」等） ○古典（「おくのほそ道」等）	○詩歌（「俳句」等）

4【評価の観点・評価方法】

評価の観点	内容	評価の方法
知識・技能	漢字・語彙・文法・敬語などの「言葉」について正しい知識をもち、用いることができるかを評価します。古典・書写・読書などの「伝統文化」に親しむ態度や取り組みなどを評価します。情報に関する理解を深め、知識や技能を身につけているかを評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の得点 ・漢字テストの得点 ・ノートやプリントの記述 ・音読 ・硬筆や書きぞめ等の書写 ・読書
思考・判断・表現	場や相手に応じた話し方や聞き方を工夫してできるか、「話すこと聞くこと」に関して評価します。題材に従って必要な材料を集め、構成を考え、自分の考えを書くことができるのか、「書くこと」に関して評価します。様々な種類の文章を読み、内容を理解するとともに自分の考えをもつことができるか、文章の書き方を理解することができるか、「読むこと」に関して評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の得点 ・放送問題の得点 ・ノートやプリントの記述内容 ・発表の内容 ・話し合い活動への取り組み
主体的に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているか、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしているか評価します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートやプリントの記述内容 ・ワークへの取り組み ・授業での様子 ・授業中の発言 ・授業の振り返り

5【観点と評定について】

4の《3つの観点ABC》の意味と、組み合わせと評定との関連

「十分満足できる」状況と判断 : A

「おおむね満足できる」状況と判断 : B

「努力を要する」状況と判断 : C

*授業参加の実態がほとんどない、定期試験や单元テスト等が未受験、提出物が出ていない等、評価の材料がなかった場合、評定不能の判断により、評定欄が斜線の場合があります。

*観点の内容による傾斜評価はありません。

観点別評価	評定
AAA	5
AAB	4
AAC ABB ABC BBB ACC BBC	3
BCC	2
CCC	1

6【道徳科との関連】

国語の学習で身につける力	道徳で学習する態度
社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。
社会生活における人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を身につける。	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方を理解すること。
言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を身につける。	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって、社会の形成者として、その発展に努めること。

7【家庭学習のしかた】

授業で学習したことの復習をしましょう。教科書の文章を音読することも効果的です。しっかり声を出して読みましょう。読めない漢字が明らかになり、語句の使い方も知ることができます。特に古文や漢文は覚えるまで何度も繰り返して音読しましょう。漢字の練習は丁寧に継続的にできるといいと思います。書き順を確かめ、音読み・訓読みをチェックしたら3回以上は漢字を実際にかくとよいでしょう。家庭学習帳に日記を書くことで、文章を書く力がつきます。家庭学習帳に日記を書くときに、ひらがなを多用せず、書けるものは漢字を使うように心がけましょう。「話し言葉」と「書き言葉」の違いにも気をつけながら書くとさらによいと思います。また日ごろから読書の習慣をつけ、活字に慣れ、読解力をつけていきましょう。幸並中学校では毎朝読書の時間が設けられています。図書館や書店をのぞいて、素敵な本と出会ってください。